



進級 進学に向けて 夢と希望

校長 佐藤 正文



〔6年生を送る会〕

2月22日(金)に6年生を送る会が行われました。全校合唱で歌った「パーム・パーム」(手のひら)の中には、「優しさ」「仲間」「勇氣」「希望」「一言で悲しみが喜びに変わる」などの歌詞があり、これから進級、進学を迎える子供たちにぴったりの歌となりました。各学年が心をこめて準備してきた出し物もすばらしく、体育館いっぱい温かく和やかな雰囲気ひろがりました。子供たちの成長した姿に感動しました。

「わか竹の 伸びゆくごとく 子どもらよ 眞つすぐのばせ 身を たましひを 牧水」と書かれた額が、応接室に飾られています。若山牧水の詠まれた短歌です。本校第5代校長小林昌道先生が、学校に寄贈されたものと記されていました。

竹は、一節ごとにぐんぐんと伸びていきます。一年間の節目を迎える時期となりました。この歌のように、子供たち一人一人が身も心も眞っ直ぐに、自信をもって、自分の力を伸ばしていけるよう今後も指導して参ります。

さて、まもなく、忘れまい3月11日。8年前の東日本大震災。住民の避難誘導をされていた時にいのちを亡くされた方々の話が、語り継がれています。そのことを知った時、子供たちに「いのちの授業」を続けられていた日野原重明医師の言葉と出会うことができました。

「心で見なくちゃ、物事はよく見えない。肝心な事は、目に見えないんだよ。そう、いのちは目に見えない物。だからこそ、大切な物なのです。もちろん、心臓も大切な物ですが、心臓はいのちその物ではありません。いのちとは、『きみたちのもっている時間』『きみたちが使える時間』のことです。そのいのちを、きみたちはどう使っていますか。今はきみたちのいのちを自分のためだけに使っているかもしれません。でも、大きくなったら、どうか自分以外のだれかのためにも、きみたちのいのちを使ってください。」とあります。

4月からの新しい生活に、子供たちが、人と人とのつながりを大切にしながら、いのちの尊さを感じ、夢と希望をもって歩み続けてほしいと心より願っております。

最後になりますが、保護者の皆様、地域の皆様、学校応援団の皆様には、PTAのスローガンにもありますように「地域みんなで！助け愛！支え愛！手を取り愛！」のもと、子供たちのために活動していただきました。心より感謝申し上げます。

来年度もどうぞよろしく願いいたします。